

預かり初期に発症リスクの高いSIDS（乳幼児突然死症候群）—その予防と対応

著者：中村 徳子(託児ママ マミーサービス [SIDS 予防活動] 代表、
京都府認証 NPO法人 乳幼児の救急法を学ぶ会 理事)

掲載日： 2018 年 9 月 28 日掲載

危はじめに

1995 年に開園しておりました私の園で、大切なお子様が SIDS（乳幼児突然死症候群）で亡くなりました。

保育のプロとして、大切なお子様の命をご家族からお預かりしている以上、来られた時と同じように元気な姿で、ご家族の元へお戻しすることが当然なのに、一番大切な命をお戻しすることができなかったことが、ただただ申し訳なく、悲しい思いでいっぱいでした。

かけがえのない命を守れなかった深い悔いと、お子様、ご家族への申し訳ない思いで、一時は生きる気力さえ失いかけてましたが、お子様の命を無駄にしないために、私ができることは、SIDS の予防情報を保育現場に伝え、子どもたちの命を守るお手伝いをする事しかないことと決意し、1996 年から SIDS 予防活動を始めました。

全文を読む (PDF)

https://mommy-sids.com/wp-content/uploads/2025/09/lab_09_10.pdf

この記事は、月刊『健』2009 年 6 月号「預かり初期に発症リスクの高い SIDS（乳幼児突然死症候群）—その予防と対応」を転載したものです。

※2025 年 9 月 30 日までチャイルド・リサーチ・ネット (CRN) のウェブサイトに掲載されていた記事の転用※